

ベトナムにおける「二十四孝」と字喃文献

佐藤 トウイウエン

“The Twenty-four Filial Exemplars” in Viet Nam and Nom script literature

SATO THUY UYEN

This text focuses on Vietnamese script of “The Twenty-four Filial Exemplars” in comparison to Chinese script in hopes of discovering the reception, fusion, transformation and “localization” in this meaningful phenomenon. Investigating 7 Sino-Nom versions and 7 versions Quoc Ngu (national script), especially introducing Nom poems in “Nhi thập tu hieu dien ca” (A simplication of “The Twenty-four Filial Exemplars”) by Ly Van Phuc, we generalize the popularization of this literature text in Vietnam and simultaneously make a summary of their characteristics in terms of contents, authors and so on. The Nom version of “Nhi thập tu hieu dien ca” by Ly Van Phuc reveals noticeable values and the education of “filial piety” for the people in Vietnam has regarded as a serious task. We believe that expanding the research onto Korean, Japanese versions of this work would further demonstrate the effacing of boundaries in regards to the valuable work like “The Twenty-four Filial Exemplars”.

キーワード：二十四孝、ベトナムの字喃文献、李文馥、Nhi thập tứ hiếu điển ca、Lý Văn Phúc、chữ Nôm

はじめに

中国には歴史上さまざまな思想の系譜があるが、民衆に最も深く浸透し、長期にわたって影響を与え続けた思想は孔子に始まる儒教である。さらに儒教思想は中国から日本、朝鮮、ベトナム等の隣国に受容され、現在に至るまでアジア諸国の文化、文学、社会、思想等の分野に深い影響を及ぼしている。

儒教哲学を貫く重要な思想は「孝」である。「孝」は『孝経』に「夫孝、天之経也、地之義也、民之行也¹⁾」とあるとおり、儒教においてきわめて重要な役割を果たした。孟子も「堯舜之道孝弟而已矣²⁾」というほど「孝」を重視した。『大戴礼記』曾子大孝篇にもまた「孝」の思想につき、仁、礼、義、忠、信

1) 十三経注疏整理委員会『十三経注疏整理本』第26冊『孝教注疏』三才章第七（北京大学出版社、2000年）、22頁。

2) 十三経注疏整理委員会『十三経注疏整理本』第25冊『孟子注疏』告子章句下（北京大学出版社、2000年）、378頁。

が「孝」に従属しているとして、「夫仁者、仁此者也。義者、宜此者也。忠者、忠此者也。信者、信此者也。礼者、体此者也。行者、行此者也。強者、強此者也³⁾」といている。ここで五常は「孝」を実現するためのものであり、「孝」に従属すると言ってもよかろう。ベトナムの諸王朝も中国と同様、社会をコントロールする手段として儒教を使用し、社会を安定させつつ王位を強固にするため、「徳治」、「孝道」を強調実施した。そのため、民衆への「孝道」教育は諸王朝においてきわめて重視された。

ところで、「孝道」の教育を民間に普及および実践させるには、儒教經典にある「孝」に関する哲学理論を民衆に伝わる家規、教訓等の形をとり、詩歌を用いた文学作品に改良することが最も手っ取り早い方法である。こうして、「二十四孝」等の日常生活に則した孝子説話が取り挙げられた。これらの詩歌はおおむねベトナムにおいて暗誦しやすい「六八体」で作られ、民衆の全ての階級に強いイメージを生むことを目指したものである。「二十四孝」がもともと中国に由来するものであり、日本、朝鮮にも受容されたことはいままでのない⁴⁾。

ベトナムではこれまで、「孝」の研究に関しては『孝経』、『論語』、『孟子』等に焦点が当てられてきたが、「二十四孝」についての研究はほとんどない。そこで、本稿では、「二十四孝」がベトナムにどのように受容され、またどのような変遷を遂げたのか、李文馥（リー・ヴァン・フク、Lý Văn Phúc）「二十四孝演歌」等を中心としつつ考察し、そのベトナム的特徴を明らかにしたい。

一 「二十四孝」とベトナム

ベトナムにおける「二十四孝」について検討する前に、原本である中国の「二十四孝」を概括的に紹介しておきたい。

1 中国の「二十四孝」説話とその作者

「二十四孝」とは中国で古来伝えられた二十四人の孝子説話をいう。漢代以降に作られたさまざまな孝子伝にもとづき、元の郭居敬が1336年から1346年頃、説話集としてまとめたもので、幼童への教訓書として広く読まれた⁵⁾。

郭居敬に関する伝記資料は少ないが、『続文献通考』巻七十一によれば、

郭居敬、尤溪人、性至孝、事親左右、承順其心、嘗集虞舜以下二十四人孝行之概、序而詩之、名二十四孝詩、以訓童蒙。

といい、郭居敬の郷里の福建大田縣の民国17年（1928）編纂の『大田縣志』巻六、孝友伝、明には、

郭居敬、字儀祖、四十五都廣平人、博学好吟詠、不尚富麗、與仲凡仲實俱以詩名。性至孝、事親左右承順、備得其歡心。居喪哀毀尽礼。嘗集虞舜以下二十四人孝行、

3) 栗原圭介『大戴禮記』（新釈漢文大系第113巻、明治書院、1991年）、215頁。

4) 二十四孝説話の日本、朝鮮への伝播については、徳田進『孝子説話集の研究——二十四孝説話を中心に——』（井上書房、1963年）に詳しい考察がある。

5) 橋本草子「全相二十四孝詩選」と郭居敬——二十四孝図研究ノート その一——（『人文論叢』43、1995年）

序而廢之以詩、用訓童蒙。時虞集歐陽玄薦之、固辭不起。著有百香詩集。

とある⁶⁾。

これまでの研究によれば、二十四孝説話集には大きく三つの系統がある⁷⁾。第一は、郭居敬の原本に最も近いとされる『全相二十四孝詩選』の系統であり、その内容は、龍谷大学図書館蔵の室町後期写本によれば次のとおりである⁸⁾。

- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1) 大舜 | 2) 漢文帝 | 3) 丁蘭 | 4) 孟宗 |
| 5) 閔損 | 6) 曾參 | 7) 王祥 | 8) 老萊子 |
| 9) 姜詩 | 10) 黃山谷 | 11) 唐夫人 | 12) 楊香 |
| 13) 董永 | 14) 黃香 | 15) 王裒 | 16) 郭巨 |
| 17) 朱壽昌 | 18) 劔子 | 19) 蔡順 | 20) 庾黔婁 |
| 21) 吳猛 | 22) 張孝張礼 | 23) 田真 | 24) 陸績 |

第二は、日用類書の『日記故事』の系統であり、『日記故事』系の「二十四孝」を代表する例として『新鍔類解官様日記故事大全』がある。『新鍔類解官様日記故事大全』の記載法は『全相二十四孝詩選』と異なって、標題は「孝感動天」、「親嘗湯藥」、「嚙指痛心」などの四字句の題で示している。その内容は同書巻1「二十四孝」によれば次のとおりである⁹⁾。()内は筆者が補ったものである。

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1) 孝感動天 (大舜) | 2) 親嘗湯藥 (漢文帝) | 3) 嚙指痛心 (曾參) |
| 4) 單衣順母 (閔損) | 5) 為親負米 (仲由) | 6) 買身葬父 (董永) |
| 7) 鹿乳奉親 (劔子) | 8) 行傭供母 (江革) | 9) 懷橘遺親 (陸績) |
| 10) 乳姑不怠 (唐夫人) | 11) 恣蚊飽血 (吳猛) | 12) 卧冰求鯉 (王祥) |
| 13) 為母埋兒 (郭巨) | 14) 捨虎救親 (楊香) | 15) 棄官尋母 (朱壽昌) |
| 16) 嘗糞憂心 (庾黔婁) | 17) 戲彩娛親 (老萊子) | 18) 拾椹供親 (蔡順) |
| 19) 扇枕温衾 (黃香) | 20) 涌泉躍鯉 (姜詩) | 21) 聞雷泣墓 (王裒) |
| 22) 刻木事親 (丁蘭) | 23) 哭竹生笋 (孟宗) | 24) 滌親溺器 (黃山谷) |

第三は、『孝行録』の系統であり、『孝行録』系の「二十四孝」を代表する例として南葵文庫本『孝行録』がある。『孝行録』は高麗(朝鮮)の儒者李齊賢が著したもので、その後日本にも広く流布した。『孝行録』の記載法は標題が四字句の題を示しているが、『日記故事』系と違い、四字句の中に孝子の名を入れる。その内容は同書「前後賛総目」によれば次のとおりである¹⁰⁾。

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1) 大舜象耕 | 2) 老萊兒戲 | 3) 郭巨埋子 | 4) 董氏賃身 |
|---------|---------|---------|---------|

6) 黄成助『大田縣志』巻6、孝友伝(成文出版社有限公司影印、1975年)第2冊、744頁。

7) 黒田彰『孝子伝の研究』佛教大学鷹陵文化叢書5(思文閣出版、2001年)、82頁。

8) 龍谷大学図書館蔵本『新刊全相二十四孝詩選』は、現在伝わる同書のテキストのうち最も古いものといわれる。いまその影印本および禿氏祐祥『二十四孝詩選解説』(1946年)による。

9) 張瑞圖校、鎌田環齋再校『新鍔類解官様日記故事大全』上、巻1、「二十四孝」(文海堂、文樵堂合梓、天保4年(1831))

10) 南葵文庫『孝行録』、前後賛総目(元順帝6年(1346))。注7所掲の黒田『孝子伝の研究』所載影印本による。また関西大学総合図書館内藤文庫蔵『孝行録』(L21*4*739)も参照した。

- | | | | |
|-------------------------|----------|----------|-------------------------|
| 5) 関子忍寒 | 6) 曾氏覚痛 | 7) 孟宗冬筍 | 8) 劉殷天芹 |
| 9) 王祥氷魚 | 10) 姜詩泉鯉 | 11) 蔡順兮樵 | 12) 陸績懷橘 |
| 13) 義婦割股 | 14) 孝娥抱死 | 15) 丁蘭刻母 | 16) 劉達売子 ¹¹⁾ |
| 17) 文覚警父 ¹²⁾ | 18) 田真諭弟 | 19) 魯姑抱長 | 20) 趙宗替瘦 |
| 21) 鮑山負筐 | 22) 伯瑜泣杖 | 23) 挾子入鹿 | 24) 楊香跨虎 |

『孝行録』は朝鮮から日本へ伝わり、日本でも広く読まれたが、順序の配列、孝子の人物は『全相二十四孝詩選』系統および『日記故事』系統とは異なっている。この『孝行録』は朝鮮で編纂されたこともあり、ベトナムでの「二十四孝」とは関わりが薄いと思われる。

このように二十四孝説話の3系統は共通する部分もあるが、とりあげられる人物および順序にかなりの違いがあることがわかる。

2 ベトナムにおける孝

ファン・ダイ・ゾアン (Phan Đại Doãn) 氏はベトナムの儒教について「ベトナムでは儒教は北属期¹³⁾に伝わったが、李朝と陳朝から、儒教は次第に社会に幅広く影響をもたらした。しかし、その時期には実際に為政者、朝廷の官吏などの階級にしか浸透しなかった¹⁴⁾」と述べている。実際に儒教の位置が確定したのは、李朝の時代、神武二年(1070、宋熙寧三年)のことであり、『大越史記全書』(以下、『全書』と省略)によると、「庚戌神武二年宋熙寧三年秋八月、修文廟、塑孔子周公及四配像、畫七十二賢像、四時享祀¹⁵⁾」とある。これ以降、各王朝は国家有用の人材を育成するため儒教思想を標準に置いた。特に、黎朝と阮朝は家庭を強固にしつつ、社会の価値水準、人格訓練の目標とするために「孝」を提唱した。

さらに、「孝」は『国朝形律』において法律化された。そのことは同書第1巻「十悪」に「一日謀反 二日謀大逆 三日謀叛 四日悪逆 五日不道 六日大不敬 七日不孝 八日不睦 九日不義 十日内乱¹⁶⁾」とあるとおりで、「不孝」の場合は罪に問われたことがわかる。また、黎朝の憲宗睿帝は景統二年(1499、明弘治十二年)、官吏と人民に対し、「朕尊臨寶位、祗紹光猷、躬孝敬以端建極之原、首綱常而闡敷言之訓、上行下效、既式底於咸寧、長治久安、欲永躋於丕績。特申條約、用列左方、故諭¹⁷⁾」と勅諭を下し、「孝敬」を基本に国家経営を行うと明言している。

11) 南葵文庫本および関西大学本『孝行録』の本文では「明達売子」に作る。

12) 南葵文庫本および関西大学本『孝行録』の本文では「元覚警父」に作る。

13) Trần Trọng Kim, *Việt Nam sử lược* 『ベトナム史略』(Bộ giáo dục trung tâm học liệu出版社、1971年)によれば、北属期はベトナムが中国歴代王朝に支配された時期であり、第一北属期(紀元前111年～紀元39年)、第二北属期(43年～544年)、第三北属期(603年～939年)の三期に分けられた。ここにいう北属期は第二・第三北属期をいうのであろう。

14) Phan Đại Doãn, *Một số vấn đề nho giáo Việt Nam* 『ベトナム儒教のいくつかの問題点』(Chính trị quốc gia Hà Nội出版社、1998年)、9頁。

15) 陳荆和『大越史記全書』校合本、本記全書卷之三(東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター刊行委員会、1984年)、245頁。

16) *Quốc triều hình luật* 『国朝形律』(A 341) 在ハノイ漢喃研究院所蔵、126頁。

17) 注15所掲の陳荆和『大越史記全書』校合本、本記全書卷之十四、762頁。

黎朝と阮朝では科挙教育や官吏応募、官吏活動の面でも「孝」の思想が重視された。それは明命帝が官吏選抜の際に孝行者を選び、「孝子」に「孝行可風」、「孝順可風」等の扁額を恩賞したことに反映されている。そのことは『大南寔録』正編に、

諸地方導諭冊上所轄孝子順孫義夫節婦、命禮部議奏及議上請隋行寔之、高下分為優平次三項、旌賞有差優項一人、賞銀五十兩、緞四匹、給與扁額、官為建坊平項十一人、各賞銀三十兩、緞二匹、給與扁額〔孝子扁刻孝行可風、順孫扁刻孝順可風、義夫兼孝子扁刻行義可風、節婦扁刻貞節可風、各四大字。〕¹⁸⁾

とある。さらに、明命帝は丁亥明命八年（1827）庚午の日に太和殿で朝した際、「朕惟聖人立教崇孝、所以敦彝王位、在元斂福、是惟敷錫、蓋多福必歸于有徳、而至孝莫大乎尊親」という詔書を布告した¹⁹⁾。

明命・紹治・嗣徳などの各帝は、家庭を穏やかにし、社会を和睦させるため、人民に対して「孝行」の啓蒙、教育を強化した。そのため、朝廷で「孝行」を推奨したり、模範的「孝子」を顕彰したり、孝行者の伝記を編纂することなどが促進され、政治教化政策の重要な一部分になった²⁰⁾。

このように「孝」を重視する政治的・社会的背景により、李文馥は郭居敬の「二十四孝」を字喃で演音し、各階級に普及させた。この他、嗣徳帝の『聖諭訓迪十條演義歌』、梶嵩皇子の『孝経立本』、「孝史略詮」、「孝史国音歌」、「孝経国音演歌」、李文馥の「二十四孝演歌」などの「孝」思想を強調する文学作品、孝史の本が字喃で書かれ、勸孝の詩が阮朝に広まっていったのである²¹⁾。

3 李文馥の履歴

李文馥（リー・ヴァン・フク、Lý Văn Phục）は字を鄰芝、号を克齋という。河内永順県湖口村の人で、1785年に生まれた。彼は深淵な文才のある儒者であった。嘉隆18年（1819）に挙人（科挙試験の一つである郷試合格者の称号）になった。明命元年（1820）からは阮朝の官僚となり、明命・紹治・嗣徳の三朝に仕えた。明命帝時代初期には翰林編修（Hàn Lâm biên tu）として任用され、史館に勤務した。そして、礼部見事（Lễ bộ kiến sự）、戸部右侍郎（Hộ bộ hữu thị lang）、右参知（Hữu tham tri）という高官を歴任した。紹治元年（1841）、礼部右参知を授けられ、正使として中国に派遣され、その後も隣国にしばしば派遣された。

彼は『西行見聞紀略』、『越行吟』、『鏡海続吟』、「婦箴便覧」、「不風流伝」、「使程便覧曲」、「二十四孝演歌」、「自述」、「掇拾雜記」などの詩集、筆記など漢字・字喃による作品を数多く著した。嗣徳2年（1849）、郎中に遷せられ、翌年に光祿寺卿という役職に抜擢されたが、在職中に亡くなった。礼部右侍

18) 阮朝国史館『大南寔録』正編第二紀卷四十八「大南寔録六」（慶応義塾大学言語文化研究所、1972年）、233～234頁。
〔 〕内は双行注。

19) 注18所掲の阮朝国史館『大南寔録』正編第二紀卷四十九「大南寔録六」、245頁。

20) 注14所掲の Phan Đại Doãn, *Một số vấn đề nho giáo Việt Nam* 【ベトナム儒教のいくつかの問題点】、139～144頁。

21) Nguyễn Thị Kiều Minh, *Việc diễn Nôm Hiếu kinh thế kỷ 19: Một số vấn đề văn bản học và nội dung học thuật* 【19世紀『孝経』を字喃で翻案すること——学術と文献学のいくつかの問題点——】（ハノイ人文・社会・科学大学修士論文、2007年）、26頁。

郎を追封された²²⁾。

「二十四孝演歌」が著作された年代はグエン・テイー・ガン (Nguyễn Thị Ngân) 氏の研究によると、明命十六年 (1835) 夏から冬にかけてとされるが²³⁾、『掇拾雜記』に収録された「二十四孝演歌」²⁴⁾の冒頭にある彼自身の序文すなわち「二十四孝演歌引」に「後学永順克齋李文馥隣芝氏、書于古粵仙城之同寶館、時 明命拾陸年小春之吉」とあることから、明命16年 (1835) 陰暦10月に書かれたことが明らかである。

「二十四孝演歌引」の全文は次のとおりである。

二十四孝故事童而習之也尚矣。離父母之懷、如今五十有一年、關山落落髮髮皤皤、口且誦之矣、手且録之矣、故從而為之演。何若是其諄諄焉者。二十四孝皆古之聖人也、賢人也。吾夫子不云乎、所求乎子以事父未能也。吾家有七十三歲慈親在吾即未能、吾願吾之子若孫、世世持為一家範不可乎。夫人幼而學之、壯而行之、不知老之將至、學皆然、而况孝為百行之首乎。誦之矣、録之矣、求其孫孩幼婦女無不曉、不有方言俚語以諷詠之乎。此其既誦之、録之、而復演之者之意也。要之人之所以為人、不可一日而不存赤子之心、吾之子媳孫姪輩其勉旃、演成自弁數語以為之引。後學永順克齋李文馥隣芝氏書于古粵仙城之同寶館。時 明命拾陸年小春之吉。

ここには、孝の重要性と、孝道を子孫たちが実践するためにこの「演歌」を著したことが述べられている。

4 ベトナム社会における「二十四孝演歌」の位置

ファン・ダイ・ゾアン (Phan Đại Doãn) 氏の論文「儒教の影響の下のベトナムの伝統的な家庭」によると、

天下を統治するため「孝」を道具として使用したのは儒教の影響下にあるほとんどの封建朝廷、特に阮朝の文化・政治路線であった。教科書とされた『四書』、『五経』の以外に、黎・阮朝はまた『孝経』の導入を強調した。阮朝は「二十四孝演歌」を印刷させ、全国に公布し、絵を入れて各地で販売した。今世紀の半ばまでに (引用者注：1998年刊行当時)、「二十四孝演歌」のいくつかの説話を北部から南部まで各地の小学校の教科書に導入した²⁵⁾。

とある。さらに、チュ・ラン・カオ・フィ・ジュ (Chu Lang Cao Huy Giu) 氏は、

二十四孝は昔の中国の24人の孝子についての説話である。李文馥は元の郭居業による漢文書である『二十四孝』に基づいて「六八体」の詩体で國音に演義した。李文馥は我が国の「親孝行」の語り部である。彼は最初、子孫に家訓として残す目的で「二十四孝演歌」を著作したが、その後、全国に流行し、口々に賛辞が伝えられ、親に対する子の指標として価値がある書物になった。現在は教科

22) Vũ Khiêu, *Danh nhân Hà Nội* [ハノイ名人] (Hà Nội出版社、2004年)、531-540頁。

23) Nguyễn Thị Ngân, 「周遊列國的越南名儒李文馥及其華夷之辨」、*Nghiên cứu tư tưởng nho gia Việt Nam từ hướng tiếp cận liên ngành* ([接近の方向から見るベトナム儒家思想の研究]) (Thế giới出版社、2009年)、182頁。

24) 中国の書物を漢字字喃に書きなおした際、原本の書名の後に、“diễn ca”「演歌」、「diễn nghĩa」「演義」、「diễn âm」「演音」、「diễn nghĩa ca」「演義歌」、「giải âm」「解音」などの言葉をつける。

25) 注14所掲の Phan Đại Doãn, *Một số vấn đề nho giáo Việt Nam* [ベトナム儒教のいくつかの問題点]、140頁。

書のランクに入っている²⁶⁾。

と述べている。

さらに、タイン・ラン (Thanh Lãng) 氏は李文馥の「二十四孝演歌」について、

「二十四孝演歌」は平易で素朴な言葉と倫理的教訓の性質のため大きな賛辞が寄せられた。形式としては「六八体」の詩416句である。民間に広く普及し、特に北部の儒家の家では教育用書物として用いられたと評価できる²⁷⁾。

と論評した。

このように、「二十四孝演歌」はベトナム人の家庭の「孝」教育の分野で重要な位置を占め、大きな影響を与えたといえる。

二 字喃による演音の目的とその歴史

「二十四孝演歌」は「二十四孝」説話を漢文によって引用したあと、その意味を字喃の「双七六八体」²⁸⁾で解説している。ここで字喃の歴史と字喃によって書かれた文献について簡単に整理しておこう。

周知のように、漢字がベトナムの地で使用され始めたのは7世紀頃からと考えられる²⁹⁾。しかし、ベトナム人にとって漢字はあくまでも外来語の表記であり、大多数の民衆にとって日常生活における感情、意思を表現することができないため、民族に適合した文字を造ることが必要不可欠となり、字喃が誕生した。西山朝の光中帝以外、各王朝は字喃を正統の文字と認めなかったものの、字喃は漢字と並行して使用された。字喃の誕生の歴史については様々な議論があるが、グエン・クアン・ホン (Nguyễn Quang Hồng) 氏は次のように述べている。

『ベトナムの漢字字喃板刻本』第1巻で「奉聖夫人黎氏墓誌」という碑文を紹介した。碑文には建立の年代、作者は書かれていないが碑文の内容に基づいて、政隆寶應11年（1174）の後すぐに建てられたことや、漢字を借りた字喃、自ら作った字喃があることが分かった。この時代よりさらに早い年代の証跡はまだ見つかっていないが、「奉聖夫人黎氏墓誌」は遅くとも12世紀の初め頃、いくつかの字喃がベトナム人の漢字文献に実際に入ったことを示す証拠である³⁰⁾。

字喃は漢字よりも民族の言葉の世界に深く潜入し、彼らの意思、感情を記す道具としてのメリットが

26) Chu lang Cao Huy Giu 注解, *Nhị thập tứ hiếu* 【二十四孝】(Tân Việt出版社、1956年)、7頁。

27) Thanh Lãng, *Khởi thảo văn học sử Việt Nam văn chương chữ Nôm* 【ベトナム文学史起草——字喃文學】(Phong trào văn hóa出版社、1953年)、55頁。

28) 五言・七言という中国における詩歌形式より六言、八言を交替させる「六八体」及び七言、七言、六言、八言を交替させる「双七六八体」はベトナム語の独自の短詩形慣用表現ないし短い歌であり、押韻、脚韻、平仄等の規則がある2行以上の6音、8音が交替する「六八体」、4行以上の7音、7音、6音、8音が交替する「双七六八体」の詩歌形式である。この二つの詩歌形式は漢詩、中国の書物を焼きなおした作品或いは歌謡、民謡など民間文学の作品によく使用されている。

29) 潘文閣・Claudine Salmon (主編)『越南漢喃銘文匯編第一集』北屬時代期至李朝 (École Française d'Extrême-Orient、1998年)に紹介された最古の資料は「大隋九真郡寶安道場之碑文」(618年)である(5頁参照)。

30) Nguyễn Quang Hồng, *Khái luận văn tự học chữ Nôm* 【字喃文字学概論】(Giáo dục出版社、2008年)、106-110頁。

あった。そのため、字喃による「六八体」或いは「双七六八体」に変えられた『四書』、『五経』、『百家諸子』などの漢字の作品が多く出現したのも驚くことではない。「六八体」、「双七六八体」という詩歌形式は押韻、平仄律があるため覚えやすく、民衆性、伝承性が高かったのである。

漢字文献が字喃に変換される歴史を言えば、その分野、テーマ、課題によって年代が異なるが、ここでは儒教の経典を演義する歴史についてのみ紹介しておく。

『全書』によると、陳朝の順宋帝乙亥八年（明洪武二十八年、1395）に胡季犛が『書経』の「無逸篇」を国語に訳したことが「夏、四月、詔季犛入居省臺之右、名曰晝廬、季犛因編無逸篇、譯為國語、以教官家」³¹⁾と記されている。儒教の経典をベトナム語（字喃）で説明するようになったのは陳朝であったと言える。その後『詩経』をベトナム語の散文に書き直し、黎朝永盛10年（1714）に『詩経解音』という書名で木活字によって初刊され、光中5年（1792）に崇正院で再刊された。

そして、阮朝明命16年（1835）に李文馥の「二十四孝演歌」をはじめ、明命17年（1836）、「詩経節要演義」、「書経大全節要演義」、「易経大全節要演義」、「五経節要演義」が次々に字喃に演義されたのである。この他、「中庸演歌」が成泰3年（1891）に、嗣徳帝が孔子の『論語』20篇を『論語釋義歌』に字喃で書き直し、成泰8年（1896）に、成泰年（1889-1907）に棉樹皇子の『孝経國音演歌』、啓定3年（1918）に『孝経譯義』が印刷された³²⁾。

字喃で演義する目的は聖賢の思想を解説して、全ての階級に儒教の倫理を幅広く浸透させ、儒学者のみならず子供や女性や農民、読書や学習不能な人々に有効に知識を伝授し、誰でも儒教の思想が理解できるよう教育することであった。陳仁宗帝は民衆が理解できるよう行遣という官吏に王の詔、諭などを国語（つまり字喃で演義すること）に解釈するように命じたとある。そのことは『全書』に「帝諭行遣司交好翰林院故事、凡宣德音、則翰林預送詔藁于行遣、使先肄習、至宣讀時、兼講音義、令凡庶易曉者、以行遣專用中官故也。」³³⁾と記載されている。さらに、ベトナム儒教の研究者であるファン・ダイ・ゾアン（Phan Đại Doãn）氏は「鄭楹王（chúa Trịnh Doanh）は広く伝え民間が覚えやすくするため、汝廷瓚三従に『黎朝教化条例』を国語に訳するよう指示し、景興22年（1761）に印刷した後、北部（Đàng Ngoài）の全域に流布した」³⁴⁾と述べている。

要するに、理解・暗誦しやすい詩体で国語（字喃）に翻案することは経典にある「孝」思想及び儒教の思想を民間に普及するのに不可欠なこととされた。こうして李文馥の「二十四孝演歌」をはじめとする多くの「二十四孝」関連の字喃文献が、生み出されたのである。

三 ベトナムでの「二十四孝」の流布の状況

現在、ハノイ漢喃研究院、ホーチミン市総合科学図書館およびベトナム国家図書館には「二十四孝」

31) 注15所掲の陳荆和『大越史記全書』校合本、本記全書卷之八、470頁。

32) 注30所掲のNguyễn Quang Hồng, *Khái luận văn tự học chữ Nôm* 『字喃文字学概論』、408-409頁。

33) 注15所掲の陳荆和『大越史記全書』校合本、本記全書卷之五、364頁。

34) 注14所掲のPhan Đại Doãn, *Một số vấn đề nho giáo Việt Nam* 『ベトナム儒教のいくつかの問題点』、147-148頁。

に関する漢字字喃の文献がいくつか所蔵され、書店では国語字で書かれた「二十四孝」説話が市販されている。それは「二十四孝」がベトナムの社会、ベトナム人の生活の中に流布し、影響を深く与えている証拠と言えよう。次に筆者が収集したこれらの文献について紹介してみたい。

1 ハノイ漢喃研究院所蔵の漢字字喃文献

①「二十四孝演歌」（『掇拾雜記』）（AB132）³⁵⁾

『掇拾雜記』（AB132）は李文馥（鄰芝）によって編纂され、作者の序文があり、154頁の漢字字喃の写本で、高さ32センチ、幅22センチ。内容は「漢字で書かれたベトナムにおける言語、文学に優れた30人の説話」、「字喃で書かれたいくつかの説話」、「二十四孝演歌」、「婦箴便覧」等の四種の文献が合冊されている。このうち「二十四孝演歌」には二十四孝演歌後（杜俊大の跋文）、二十四孝演歌引（李文馥の序文）、中国の24人の孝子についての漢文の原文、字喃による「双七六八体」で演音の24篇の詩歌で構成されている。24人の説話は次の順序のとおりに配列されている。

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1) 孝感動天（大舜） | 2) 親嘗湯藥（漢文帝） | 3) 嚙指痛心（曾參） |
| 4) 單衣順母（閔損） | 5) 為親負米（仲由） | 6) 鹿乳奉親（剡子） |
| 7) 戲彩娛親（老萊子） | 8) 買身葬父（董永） | 9) 為母埋兒（郭巨） |
| 10) 涌泉躍鯉（姜詩） | 11) 拾撻供親（蔡順） | 12) 刻木事親（丁蘭） |
| 13) 懷橘遺親（陸績） | 14) 行傭供母（江革） | 15) 扇枕温衾（黄香） |
| 16) 聞雷泣墓（王裒） | 17) 恣蚊飽血（吳猛） | 18) 卧冰求鯉（王祥） |
| 19) 搯虎救親（楊香） | 20) 哭竹生笋（孟宗） | 21) 嘗糞憂心（庾黔婁） |
| 22) 乳姑不怠（唐夫人） | 23) 棄官尋母（朱寿昌） | 24) 滌親溺器（黄山谷） |

以下に紹介する他の漢字字喃の「二十四孝」関係文献に載せる人物と順番はすべてこれと同様である。

「二十四孝」の系統については「二十四孝演歌後」（杜俊大の跋文）には「命從李鄰芝翁如粵、檢日記故事」とあるため、ベトナムでの「二十四孝」は『日記故事』系統に属するといえるが、上記の孝子の標題の記載法は既述した『日記故事』系の『新鐫類解官樣日記故事大全』と一致するが、順序配列は異なっている。ベトナムでの「二十四孝」の順序の配列、標題の記載法は、実は『前後孝行録』の「二十四孝原編」³⁶⁾とまったく一致する。

『前後孝行録』は「二十四孝原編」一卷（宋朱熹撰）と「二十四孝別集」一卷（清高月槎）からなり、清の道光元年（1821）の刊本が知られている³⁷⁾。さらに、あとに述べる⑥『四十八孝詩画全集』の詠序に

35) ハノイ漢喃研究院所蔵番号。A, AB, AC, AD, AE, AF, AG, AH, AJは、1958年にハノイフランス極東学院より移管されたもの、VHb, VHv, Vht, VNb, VNvは、1958年から1979年にかけて国内各種書院或いは民間より譲渡されたものを示す。劉春銀・王小盾・陳義『越南漢喃文献目録提要』（中央研究院中国文哲研究所、2002年）による。調査に当たってはハノイ漢喃研究院のDinh Khac Thuan先生にご支援いただいた。

36) 唐碧編『前後孝行録』民俗、民間文学影印資料89（上海文芸出版社、1991年）。

37) 注4所掲の徳田進『孝子説話集の研究——二十四孝説話を中心に——』、282頁、注7所掲の黒田彰『孝子伝の研究』、400頁参照。

は、「前後二十四孝二本、一是朱文公原編、一是高月槎先生別集」とある。そのため、標題、順序の配列の記載法によると、ベトナムにおける「二十四孝」は「二十四孝原編」と関わりがあることがわかるが、その詳細については今後の課題としたい。

② 「二十四孝演音」(『孝順約語』) (A 433)

『孝順約語』は杜發によって編纂された158頁の写本で、高さ32センチ、幅21センチ。范道甫(号義齋)の序文がある。内容には「孝順故事を語る四言体の386篇の詩」、李文馥、陳秀穎、杜俊大の「二十四孝について詠ずる詩」、李文馥の「二十四孝演音」、陳名案の「勸子勤学歌」等の四種の文献が収められている。本書所収の「二十四孝演音」は他の文献より多く漢字を使用する傾向がある。

編纂の年代は明記されていないが、范道甫の序文の初めには「甲寅春」と書かれている。そして、編纂者である杜發(1813-1893)³⁸⁾の生まれた年、亡くなった年から見て、「甲寅年」は1854年であると推測される。そのため、この『孝順約語』に合冊される「二十四孝演音」は1854年に書かれたと判断できる。

③ 「二十四孝演音」(『勸孝書』) (AB13)

『勸孝書』は李鄰芝、陳秀穎、杜鑑湖によって編纂され、『ベトナム漢喃遺産——書目提要』³⁹⁾によれば、漢字字喃の八種の刊本があるが、各種の内容は同様であり、文唱帝君の「勸孝」(字喃文書)、「勸孝善」(漢文書)、李鄰芝の「二十四孝演音」の三種の文献が合冊されている。ここでは嗣徳23年(1870)に刊行された「二十四孝演音」(『勸孝書』) (AB13)を用いる。この『勸孝書』は全56頁で、高さ24~26.5センチ、幅14~15.5センチ。

本書所収の「二十四孝演音」はいくつかの字喃が他の三つの文献(①「二十四孝演歌」(『掇拾雜記』)、②「二十四孝演音」(『孝順約語』)、④「二十四孝演歌」(『陽節演義』))と比べて、全く異なる意味を持つ文字または誤字が使われている。

④ 「二十四孝演歌」(『陽節演義』) (VHv 1259)

『陽節演義』は漢字字喃の五種の印本があるが、『ベトナム漢喃遺産——書目提要』によると、「二十四孝演歌」を載せる『陽節演義』は成泰庚寅年(1890)に觀文堂で印刷されたVHv 1259の刊本テキストだけのようである。この『陽節演義』は全62頁で、高さ24センチ、幅15センチ。字喃に演義された中国の「陽節」、李文馥の「二十四孝演歌」、黄道成が編纂した「幼學越史四字」、「三千字解音」、「明道家訓」などの五種の文献を収めている。この『陽節演義』に合冊される「二十四孝演音」は嗣徳辛末年(1871)年に錦文堂で印刷され、題詠詩がある。

38) Ban Hán Nôm thư viện khoa học xã hội, *Thư mục Hán Nôm —— mục lục tác giả* 『漢喃書目——作者目録』(Ủy ban khoa học xã hội Việt Nam 出版、1977年)、64頁。

39) Viện Nghiên cứu Hán Nôm và Học viện Viễn Đông Bắc Cổ Pháp, *Di sản Hán Nôm Việt Nam – thư mục đề yếu* 『ベトナム漢喃遺産——書目提要』(Khoa học Xã hội 出版社、1993年)

⑤ 「二十四孝演歌」（『驪州風土話』）（VHv 1718）

『驪州風土話』は嘉隆辛末年（1811）に裴楊樞によって編纂され、序文、跋文があり、五種の写本があるが、『ベトナム漢喃遺産——書目提要』によると、「二十四孝演歌」を載せる『驪州風土話』はVHv 1718の刊本テキストだけのようである。ここではVHv 1718の漢字字喃の写本を考察する。VHv 1718は全128頁で、高さ27センチ、幅16センチ。「父安風土記」以外、附載部として「雑編」、「科挙の稟文」、副榜鄧元謹の「謝亭蘭玉」という賦、仙田人衡楽伯の「弔幸庵先生文」、李鄰芝の「二十四孝演音」などの六種の書物を収めて合冊されている。この『驪州風土話』にある「二十四孝演音」には「二十四孝」が字喃に演義された詩歌は記載されず、漢文の「二十四孝詠詩」のみが書かれている。

この『驪州風土話』編纂の年代は書かれていないが、その中に「弔幸庵先生文」があり、幸庵先生は元浹（1723-1804）⁴⁰⁾の号であるため、仙田人衡楽伯の「弔幸庵先生文」は1804年に書かれたものに違いない。その他、同書には副榜鄧元謹の「謝亭蘭玉」という賦があり、『漢喃書目——作者目録』によると、「鄧元謹は成泰7年（1895）に副榜⁴¹⁾に合格した」⁴²⁾とある。そのため、VHv 1718は1895年以降に編纂されたと推測される。

⑥ 「四十八孝詩画全集」（AC16、A3104/c）

『四十八孝詩画全集』は鄧輝著によって編纂され、阮廷亮によって校正されたもので、嗣徳丁卯年（1867）に印刷された漢文による二種の刊本がある。このうち、A3104/cは60頁で高さ31センチ、幅23センチ、詩はなく、挿絵のみ記載する。また、AC16は全98頁で高さ28センチ、幅19センチ。中国の朱考亭（朱熹）、高月槎の「二十四孝」の漢字原文と挿絵を含む。

⑦ 「補正二十四孝傳演義歌」（『孝経國音演歌』）（VNv60）

『孝経國音演歌』（VNv60）は櫛嶺皇子によって編纂され、成泰年（1889-1907）に雅堂で重版された40頁の字喃文の刊本で、高さ23センチ、幅16センチ。内容は「孝経國音演歌」、「活世生幾孝子光傳」、和盛郡王仲延が定めた「補正二十四孝傳演義歌」等の三種の書物を収めて合冊されている。

2 ホーチミン市総合科学図書館、ベトナム国家図書館所蔵および市販の「二十四孝」関連文献

⑧ *Vọng cổ Bạc Liêu*⁴³⁾ “*Nhị thập tứ hiếu*” 『「二十四孝」——懐古形式の歌』

1935年にチョ・ロン、ファム・デイン・クオン書房から刊行された。国語字で書かれた7人の孝子の

40) 注38所掲の Ban Hán Nôm thư viện khoa học xã hội, *Thư mục Hán Nôm —— mục lục tác giả* 『漢喃書目——作者目録』、262頁。

41) 『ベトナム文学史要』によると、「明命10年（1829）に科挙の曾試に合格した進士の次は副榜という名号が設定された。「副榜」の名号はその時からある（87頁参照）。

42) 注38所掲の Ban Hán Nôm thư viện khoa học xã hội, *Thư mục Hán Nôm —— mục lục tác giả* 『漢喃書目——作者目録』、46・47頁。

43) *Vọng cổ*（漢語「望古」）或いは *vọng cổ Bạc Liêu* はベトナム南部の一つの古楽の形式である。さらに、南部を中心に流行している歌舞伎であるカイルオン（漢語「改良」）の基本的な音楽にもなっている。

説話を懐古形式の歌に改変したもの、全19頁。この歌集はマイクロフィルムがベトナム国家図書館に第1巻のみ所蔵する。この歌集に載せる人物の数と順番の配列は前述した漢字字喃の文献と一致しない。

⑨ **Nhị thập tứ hiếu** 『二十四孝』

1956年にタン・ヴィエツト出版社から出版された。この書物は Chu lang Cao Huy Giu 氏が李文馥の「二十四孝演歌」に基づいて注解しつつ校訂したものである。作者の序文、李文馥の履歴、目次などを含む72頁。内容としては二つの部分に分けられている。第一篇では24人の孝子の説話を現代語（国語字）に訳し、「二十四孝」についての五言絶句の漢詩を載せ、第二篇では作者によって国語に訳された李文馥の「二十四孝演歌」がある。この書物に載せる人物と順番は前述した漢字字喃のすべての文献と一致する。

⑩ **Nhị thập tứ hiếu** 『二十四孝』

1996年にホーチミン文芸出版社から刊行された。この書物は出版社の序文、李文馥の履歴、目次などを含む173頁。出版社の序文には「この本は Chu lang Cao Huy Giu 氏の「二十四孝」を参考にして書かれたものである」と明記されている。内容としては「二十四孝」の漢字原文、24人の孝子の説話の現代語（国語字）訳、「二十四孝」についての五言絶句の漢詩がある。後半には作者によって国語に訳された李文馥の「二十四孝演歌」がある。この書物に載せる人物と順序の配列も前述した漢字字喃の文献と一致する。

⑪ **Hai mươi bốn gương hiếu thảo** 『二十四の孝行の鑑』

2011年に文学出版社から刊行された。序文、李文馥の経歴、目次、現代語（国語字）で書かれた24人の孝子の説話、国語に訳された李文馥の「二十四孝演歌」などを含む76頁。この書物に載せる人物と順序の配列もまた前述した漢字字喃の文献と一致する。

⑫ **Nhị thập tứ hiếu toàn tập** 『二十四孝全集』

2010年にドン・ナイ出版社から刊行された。序文、目次などを含む144頁。内容的には24人の孝子の説話が省略して現代語（国語字）で記され、さらに、「孝行」の内容を持つ有名な人々の名言、世界の民謡、諺語、ことわざの紹介をあとに付ける。この書物に載せる人物と順番は前述した漢字字喃の文献とは一致しない。

⑬ **Nhị thập tứ hiếu toàn tập** 『二十四孝全集』

2010年に美術出版社から刊行された。目次、現代語（国語字）で書かれた24人の孝子の説話、挿絵などを含む199頁。この書物に載せる人物と順番は前述した漢字字喃の文献と異なっている。

⑭ **Hai mươi bốn gương hiếu thảo** 『二十四の孝行の鑑』

2010年にダ・ナン出版社から6版として刊行された。現代語（国語字）で書かれた12人の孝子の説話、

挿絵のみ記載され、全180頁。この書物に載せる人物の数と順番の配列は前述した漢字字喃の文献と一致しない。

以上のことから、①から④までの漢字字喃の文献は李文馥が字喃で演義した「二十四孝」であり、中国の「二十四孝」の漢字原文、李文馥の「二十四孝」の七言絶句の詠詩、「双七六八体」の詩体で字喃に演音した「二十四孝」など、構成、形式、内容ともほぼ同様である。そして、⑤『驩州風土話』に合冊された「二十四孝演音」は李文馥の七言絶句の「二十四孝」だけを収め、「二十四孝」を「双七六八体」の詩体で字喃に演義した詩歌を載せていない。⑥『四十八孝詩画全集』も「二十四孝」を「双七六八体」の詩体で字喃に演義した詩歌を載せず、挿絵、漢字の本文しかない。⑦「補正二十四孝傳演義歌」は24人の孝子について「六八体」の詩体で作られた詩である。この文献は和盛郡王仲延によって定められたため、李文馥の「二十四孝演歌」にもとづく他の文献とは相違する。

国語字の書物には、⑧『「二十四孝」——懐古形式の歌』は孝子の説話を懐古形式の歌に改変したものであるため、李文馥の「二十四孝演歌」とは相違する。⑨から⑭までのベトナム語国語の「二十四孝」はすべて李文馥の「二十四孝演歌」の内容を国語字に翻字したものであるが、孝子の数、順序の配列が漢字字喃の「二十四孝演歌」と相違し、書物によっても様々である。

これにより、李文馥の「二十四孝演歌」が民間に幅広く流布したことが再確認できた。しかし、⑦「補正二十四孝傳演義歌」は国語字にまだ翻字されず、出版されてないようである。同書の最後の頁に「補正二十四孝傳演義歌完 和盛郡王府子女并孫曾孫同學本」と書かれているため、李文馥の「二十四孝演歌」ほど民間に広く普及しなかったのかもしれない。

「二十四孝」はベトナム以外、日本、韓国などへ受容されたが、ベトナムでは自身の民族の文字である詩歌の形で字喃に演義された。漢字字喃の文献（①～⑦）及び国語字の書物（⑧～⑭）のうち、10つの書物が李文馥の原作および彼の原作から国語字に翻訳したものであるため、以下、李文馥による漢字字喃の「二十四孝演歌」を紹介したいと思う。

四 「二十四孝演歌」（『掇拾雜記』）中の「孝感動天」、「親嘗湯藥」について

上述したように、現在知られる最も古い関連の漢喃文献は①『掇拾雜記』に合冊された「二十四孝演歌」である。

本章では紙幅の関係上、この「二十四孝演歌」24篇の詩のうち、最初の2篇の詩、すなわち「孝感動天」、「親嘗湯藥」をとり上げ、ここではあわせて語訳と日本語訳をつけておきたい。なお、②『孝順約語』、③『勸孝書』、④『陽節演義』はいずれも李文馥の「二十四孝演歌」を収録しているので、それらとの文字の異同（字喃・漢字）も記しておく。ただし、③『勸孝書』には「親嘗湯藥」篇は収められていない。

- (1) Vietnamese nôm preservation foundationによる *Nôm Lookup Tools* (http://nomfoundation.org/vnpf_new/index.php?IDcat=51) に登録された字喃フォントを使用する。
- (2) *Nôm Lookup Tools* にない文字の場合は、トアン・ホア出版社（2007）の『大字典字喃』あるいは

漢喃研究院に所蔵されている文献から直写し、貼り付ける。

- (3) 文字を補う場合は〔 〕で示す。
- (4) 校訂の結果を示す際、以下の略称を用いる。『掇』：『掇拾雜記』、『陽』：『陽節演義』、『孝』：『孝順約語』、『勸』：『勸孝書』。
- (5) 語釈の結果を示す際、わかりやすくなるため各の句に番号を付ける。

「二十四孝演歌」（『掇拾雜記』）中の「孝感動天」、「親嘗湯藥」

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 馱聰相躡齣歪坦 | 2. 埃羅空博媠生成 |
| 3. 麴撩坦義歪經 | 4. 於牢朱稱菴情ハ棍 |
| 5. 佇涅孝朱踰汶節 | 6. 時推審冪涅調械 |
| 7. 庄祐課輻聖賢 | 8. 討仁辻翠蒼蕪闕秋 |

孝感動天第一

- | | |
|-------------|--------------|
| 9. 堀大聖戸虞希舜 | 10. 暎潛龍當運寒微 |
| 11. 歲樺屈霽慈闈 | 12. 吒羅瞽瞍馱時央央 |
| 13. 媠疢吏性強溪乞 | 14. 媠象添室墨驕訛 |
| 15. 汶踰順竒皮匹 | 16. 逾朝吒媠翫和共媠 |
| 17. 冪菱葢汶念唁呱 | 18. 油死生空菴變移 |
| 19. 拙情哭颯叫晷 | 20. 吹瑟慳怙化愷寅寅 |
| 21. 歪高藩傘吝拱旦 | 22. 物無知群免路馱 |
| 23. 傘番嶽歷坡配 | 24. 鞞鳩為扣齣鴛為棋 |
| 25. 嗜孝友賒蹠陞聖 | 26. 命微庸拌政讓鷓 |
| 27. 琴詩襜襖請台 | 28. 汶茹傘蔭冪莧議嗜 |

語釈・校訂：

1. 馱聰相 (người tai mắt)：名の知られた人。躡 (đứng)：立つ。齣 (trong)：中、『陽』・『孝』・『勸』は「齣」に作る。歪坦 (trời đất)：天地、『陽』・『孝』・『勸』は「天地」に作る。
2. 埃 (ai)：誰。羅 (là)：…である。空 (không)：否定辞 (...でない)。博媠 (bác mẹ)：父母。生成 (sinh thành)：養育する、生まれる。
3. 麴 (gương)：鏡。撩 (treo)：かける。坦 (đất)：土。歪 (trời)：空。「麴撩坦義歪經」は『孝教』「孝者天之經也、地之義也」による。
4. 於 (Ở)：～における、暮らす。牢朱 (sao cho)：何とかして、『陽』・『孝』・『勸』は「啗朱」に作る。稱 (xúng)：応わしい。菴 (chút)：少し、『陽』は「菴」、『勸』は「菴」に作る、「菴」は異体字、「菴」は誤植と思われる。ハ (làm)：～する、～となる。棍 (con)：子供、『勸』は「棍」に作る。漢字音で (côn) で読み、(con)「子供」を表す。
5. 佇涅孝 (chữ nét hiếu)：孝の役割を果たす、『陽』は「佇涅孝」、『孝』・『勸』は「佇孝念」に作る。

- 「悖孝念」は孝を念じること。朱 (cho) : ~させる。論汶節 (tròn một tiết) : 完璧に遂行する。
6. 時 (thì) : ... は (強意語)。推番 (suy ra) : 推しはかる、『陽』、『勸』は「推黜」、『孝』は「推黜」に作る。冪涅 (trăm nét) : 百の行。調 (đều) : 皆、全て。鍼 (nên) : ~となる。「冪涅調鍼」(trăm nét đều nên) は漢語の「百善孝為先」による。
7. 庄 (chăng) : 否定辞、『陽』・『孝』・『勸』は「極」(cực) に作るが、Chăng の場合は「拯」に作るべし。枯 (xem) : 見る。課轄 (thuờ trước) : 昔。
8. 討 (thào) : 孝行。廿進罌 (hai mươi bốn) : 二十四。蕘 (thom) : 香のよい、芳しい名。蕘闕秋 (nghìn muôn thu) : 万世、代々。
9. 堀 (bậc) : 聖人および高貴な人を呼ぶ言葉。『孝』は「徳」、『勸』は「衍」に作る。大聖 (đại thánh) : 聖人。戸 (hộ) : 姓。虞 (Ngu) : 中国古代の王朝名、『陽』・『勸』は「卢」に作る。「卢」は「虞」の簡略体。舜舜 (vua Thuán) : 古代中国の五帝の一人舜帝。
10. 暝 (buổi) : 時。潜龍 (tiềm long) : 潜龍は『易経』の乾の卦に属し、龍が淵に身を隠すこと、つまり、幸運に恵まれない時。當 (đương, đang) : に当たる、『陽』・『孝』・『勸』は「返」に作る。寒微 (hàn vi) : 貧しい。
11. 歳樟 (tuổi xanh) : 少年時代。屈穉 (khuất bóng) : 死亡する、『陽』・『勸』は「屈穉」、『孝』は「屈穉」に作る。慈闈 (từ vi) : 母親、『陽』・『孝』は「慈闈」、『勸』は「慈闈」に作る。「闈」は誤植と思われる。
12. 吒 (cha) : 父親。羅 (là) : 2 (256頁) 参照。瞽瞍 (Cổ Tâu) : 人名。馱 (người) : 人。時 (thì) : 6 (本頁) 参照。央央 (ương ương) : 聞きわけのない、頑迷な。
13. 媮疢 (mẹ ghè) : 継母。吏 (lại) : また。性 (tính) : 性格。強 (càng) : さらに。溪乞 (khe khát) : 厳しい、苛烈な。
14. 媮 (em) : 弟。象 (Tuợng) : 人名。添 (thêm) : 加える、より一層。窒墨 (rất mực) : 極度に。驕訛 (kiêu ngoa) : 悪辣な、『陽』・『孝』・『勸』は「澆訛」(điêu ngoa) に作る。
15. 汶論 (một mình) : 一人、『陽』は「彘身」(một thân)、『孝』は「汶身」、『勸』は「彘身」に作る。奇 (cá) : 全て、全部、『勸』は「奇」に作る。皮 (vừa) : 満足する。匹 (ba) : 三
16. 遠 (trên) : 上。朝 (chiều) : 言いなりになる、尽す。吒媮 (cha mẹ) : 父母。鄙 (dưới) : 下。和 (hòa) : 仲よくする。媮 (em) : 14 (本頁) 参照。
17. 冪 (trăm) : 百。荻莖 (cay đắng) : 辛苦、『陽』・『孝』・『勸』は「莖莖」に作る。汶 (một) : 15 (本頁) 参照。念唁呱 (niềm ngon ngọt) : 甘美な、優しい。
18. 油 (dầu) : たとえ...でも、『陽』・『孝』・『勸』は「晒」(dầu) に作る。死生 (từ sinh) : 生死。空 (không) : 2 (256頁) 参照。蝻 (chút) : 4 (256頁) 参照。
19. 怵情 (xót tình) : 痛ましく思う。夤 (tối) : 夜。叫 (kêu) : 叫ぶ。寢 (mai) : 早朝、『陽』・『孝』・『勸』は「枚」に作る。「怵情哭夤叫寢」は『孟子』万章篇上「舜往于田、號泣于旻天」による。
20. 吹 (xui) : そそのかす。悉 (lòng) : 心。慳怍 (ghen ghét) : 怨む。化 (hóa) : ~になる。愜 (vui) : 嬉しい。寅寅 (dần dần) : 次第に。
21. 歪 (trời) : 3 (256頁) 参照。潘 (thắm) : 極めて遠い、深い。余吝 (mấy lần) : いくつの回、幾

- 度。拱 (cūng) : も。旦 (đén) : 届く。
22. 群 (còn) : まだ、なお。免 (mén) : 愛好する、『陽』・『孝』は「勉」に作る。路 (lộ) : ... はなおさらである。馱 (ngươi) : 12 (257頁) 参照。
23. 傘番 (mây phen) : 傘斉 (mây lãn) と同じ、21 (257頁) 参照。嶽歴 (non Lịch) : 歴山。坡配 (pha phôi) : 現代ベトナム語では「色褪せた」の意だが、ここでは古語で「苦勞をものともしない」の意味で理解すべきである。
24. 靴 (cò) : 草。鳩 (chim) : 鳥、『孝』は「帖」に作る。拍 (nhật) : 拾う。耨 (ruộng) : 田。獮 (voi) : 象。耕 (cày) : 耕す。
25. 喑 (tiếng) : 声、芳名。孝友 (hiếu hữu) : 孝悌。除蹠 (xa bay) : 遠くまで広まる。陸聖 (bệ thánh) : 王座。
26. 命徵庸 (mệnh trưng dung) : 徵用する。摔政 (trao chánh) : 政權を渡す。讓鶻 (nhường ngói) : 王位を讓る、『陽』・『孝』・『勸』は「讓魁」に作る。
27. 襜褕 (xiêm áo) : 衣服。請台 (thành thời) : のんびりした。「琴詩襜褕請台」は『易』繫辭下伝「垂裳而天下治」による。
28. 沃 (mật) : 15 (257頁) 参照。茹 (nhà) : 家、『孝』は「茹」に作る。覃蔭 (đâm âm) : 暖かな、穏やかな、『陽』・『孝』は「潭」、『勸』は「罽」に作る、「罽」は誤植と思われる。冪 (trăm) : 17 (257頁) 参照。蓑 (đòi) : 代。讓喑 (ngợi khen) : 褒める。

日本語訳 :

以上の28句をまとめると以下のような内容になるであろう。

天下に名の知られた人でも生んでくれた親がいない人はいない。孝は天の道、地の義である。子としての情に相応しく生きるべきである「孝」が完全に実行できれば、百行すべてがうまくいく。昔の聖賢たちを見てみよう。孝行な二十四人の手本が万世に名を留める。

孝感動天第一

大聖人舜帝は虞という姓であった。龍が淵の中に潜伏しているような貧しい運命であった。幼い頃に母親が亡くなった。父親は瞽瞍といい、頑迷な人であった。継母はより苛烈な性格であり、弟の象は非常に悪辣な人間であった。舜は一人で三人に従い、上は両親に尽くし、下は弟と力を合わせた。百の苦渋にも一の優しさで応じ、それは何があっても変わることがなかった。舜帝は田を耕す際、あまりの辛さに天に向かって夜には泣き、朝には叫んだ。父親と継母の嫉みは次第に回心へと変わっていった。高い空までも舜の心に感動し、心を持たない物までも感動した。まして人間であればなおさらである。歴山で田を耕すときには、象が田を耕し、鳥が草を拾った。舜の孝悌の心は遠くまで広まり、堯帝の耳にも届き、堯帝から王位を譲り受けた。舜の孝の心のおかげで、舜が琴を弾き、南風の詩を詠み、衣服を着用するだけで天下は安定し、その暖かな家庭は、万世に褒めたたえられた。

臥肥相跨勅委坦
 鞠捺坦義委經
 時涅孝朱輪改節
 庄祐課輅聖賢
 培大聖戸虞希舜
 歲撐屈辱慈闈
 漢阮史生慈淡乞
 漢順奇皮照
 暮荻登汶念唁阮
 恻情哭嚴叫最
 忝高蕃余吝拱且
 余番嶽歷坡配
 嗜孝友賒慈陸聖
 琴詩禮襖請白
 埃羅空博樣生成
 於牢朱稱屈情少混
 時推唇鼻涅調賊
 討仁進眾蒼新關秋
 願潛龍雷運寒微
 吒羅替腹最時尖尖
 掩象添空墨輪訊
 油死生空崑變後
 吹悉慳怙化愜寅寅
 物無知群免路歌
 靴碼為拍翹獨為靴
 命徵庸梓政讓魄
 汶茹草蔭暮茂議看

図1 「二十四孝演歌」の「孝感動天」部分（①『掇拾雜記』）

親嘗湯藥第二

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 1. 箕文帝弄賢漢代 | 2. 哪印封外埃親王 |
| 3. 涓輪職奇權鼻 | 4. 奉蝮薄后禮常庄差 |
| 5. 忍欺綏龜至治渥 | 6. 沕悉尼數數初如 |
| 7. 媿欺憐疊惊湄 | 8. 匹辭侯下常如沃鄂 |
| 9. 相燃霽噉醴職昨 | 10. 襖連輪敢數帶肢 |
| 11. 藥湯相察拊摧 | 12. 乙詳勉咄買豈鄴幔 |
| 13. 嗜仁孝屯嚙天下 | 14. 儘純良化奇黎元 |
| 15. 仁進辭禮乾坤 | 16. 包輅三代駭群留芳 |
| 17. 意仁跨帝王頭輅 | 18. 苻孝停移〔鑿鎖印〕 ¹⁾ |
| 19. 群番士庶等賢 | 20. 嚙祐余〔几嗜傳旦勝〕 ²⁾ |

注：

- 1) 原文では3文字を欠くが、『孝順約語』「二十四孝演音」により補った。
 2) 原文では5文字を欠くが、『孝順約語』「二十四孝演音」により補った。

語釈・校訂：

1. 箕 (kia) : 文頭につけて期待の意を表す語。弄 (vua) : 王。賢 (hiên) : 優しい。

2. 哪 (vâng): 承知する。印封 (ấn phong): 封爵する。瘳 (côi): 地域、瘳は“côi”「地域」, “quē”「静寂な」という読みがあるが、ここでは、“côi”「地域」と読むべし。『陽』・『孝』・『勸』は「瘳」に作る。
3. 涓 (quên): 忘れる、『陽』・『孝』・『勸』は「涓」に作る。躰 (minh): 前段15 (257頁) 参照。職 (chức): 役職。竒 (cá): 偉い、高い。霽 (sang): 高貴。
4. 奉蜎 (phụng thờ): 捧持する。薄后 (Bạc Hậu): 漢文帝の母。庄 (chăng): 前段7 (257頁) 参照。差 (sai): 間違う。
5. 忍 (nhẫn): ... まで。欺 (khi): 時。綏鬻 (nổi ngôi): 王位を継ぐ。丞 (trời): 前段3 (256頁) 参照。治渚 (trị nước): 国を治める。
6. 勿 (vẫn): 相変わらず。悉 (lòng): 前段20 (257頁) 参照。尼 (này): この。數數 (số số): 現代ベトナム語で「数々」の意があるが、ここでは古語で「変わらない」の意で理解すべきである。『陽』・『孝』は「效效」に作る。初 (xưa): 昔。
7. 媿 (mệ): 前段2 (256頁) 参照。欺 (khi): 5 (本頁) 参照。憚 (gờ): 悪い、合わない、『陽』・『孝』は「礙 (ngại) 「怕れる」に作る。盪 (gió): 風。惊 (kinh): 恐ろしい、『陽』・『孝』は「驚」に作る。涓 (mưa): 雨。「憚盪惊涓」: 雨や風にさらされるのが恐い。
8. 匹 (ba): 前段15 (257頁) 参照。躰 (năm): 年。侯下 (hậu hạ): 仕える。泯 (mật): 前段15 (257頁) 参照。駟 (ngày): 日、『陽』・『孝』は「晷」に作る。
9. 相燃霏 (mát chong bóng): 目がさえる、『陽』・『孝』は「相燃霏」に作る。噉 (dám): あえて... する。醴職昨 (say giấc ngủ): 熟睡。
10. 襖 (áo): 服。連躰 (liền minh): 服を着たままで。敢 (dám): 9 (本頁) 参照。數 (sỏ): 解く。帶肢 (đai lưng): 帶。
11. 藥湯 (dược thang): 薬、『陽』・『孝』は「藥湯 (thuốc thang) に作る。相 (mắt): 目。察 (xét): 観察する。搯 (tay): 手。搯 (nâng): 持ち上げる。
12. 乙 (át): 確かに。齧 (trong): 前段1 (256頁) 参照。呬 (miệng): 口。買 (mới): 初めて... する。舐 (dâng): 捧げる、持ち上げる。躰 (dưới): 前段16 (257頁) 参照。幔 (màn): 幕、蚊帳。
13. 啗 (tiếng): 前段25 (258頁) 参照。屯 (đồn): 広める、『陽』・『孝』は「吨」に作る。喃 (ran): 響き渡る、『陽』は「嚙 (ri) に作る。「嚙」は「滲み出る」という意味がある。
14. 躰 (thói): 癖、『陽』・『孝』は「躰」に作る。純良 (thuần lương): 善良、温厚、『陽』・『孝』は「醇良」に作る。化 (hóa): 改善する。竒 (cá): 前段15 (257頁) 参照。黎元 (lê nguyên): 民衆。
15. 廿世 (hai mươi): 二十。躰 (năm): 年、『陽』・『孝』は「輔」に作る。禮 (lê): ... より (多い)。乾坤 (càn khôn, kiền khôn): 天地、ここでは「在位する」の意。
16. 匱 (đã): 既に、~した (完了)。轅 (sau): 後。三代 (tam đại): 夏・殷・周。駭群 (hã còn): その上まだ。留芳 (lưu phương): 芳名、『陽』・『孝』は「成康」に作る、「成康」は成王と康王。
17. 意 (áy): その。仝 (hai): 二。躰 (đáng): 方、『陽』・『孝』は「位」に作る。いずれも偉人、大事業をする人物につける語。頭輅 (đầu trước): 昔、前代。
18. 苻孝 (chữ hiếu): 「孝」という文字の意。停 (dành): 与える、保留する。矻 (đá): 石。鑿 (tạc):

彫刻する。鑽 (vàng): 金。印 (in): 印刷する。

19. 群 (còn): まだ。罌 (ra): 出る、『陽』は「黜」、『孝』は「黜」に作る。士 (sĩ): 官吏、役人。庶 (thứ): 一般庶民。等 (đáng): 17 (260頁) 参照、『陽』・『孝』は「躋」に作る。賢 (hiền): 聖賢。

20. 嚙 (Đém): 数える。枯 (xem): 見る。余 (mây): 前段21 (257頁) 参照。几 (kê): 人。嗜 (tiếng): 前段25 (258頁) 参照。且 (đến): まで。勝 (nay): 現在、今。

日本語訳:

以上の20句をまとめると以下のような内容になるであろう。

漢時代に心の優しい文帝がいた。親王として封爵されたが高貴な身分にあることを忘れ、母の薄后を捧持し、普段から礼儀に違うことがなかった。王位を継いで、国を治めた時でも、そのような心を変わず持ち続けた。母親は病気がちであったため、3年間母親に仕え、眠らないよう目を見開き、帯を解いて眠ることもしなかった。薬を自分の目と手できちんと確認し、さらに自分の口でも確かめてから母親に与えた。その「仁」と「孝」は民衆たちに広まり伝わった。その温厚で善良な性格が民衆たちを善人に変えた。三代の後においても、さらに成王・康王のような方がいて、20年間在位し、芳名を留めた。この前代の二人の王は「孝」を石に刻み、金の文字で印刷し、人々の手本になった。士、民衆、賢者の中で、現在まで名声が伝わる人は何人いるか数えてみよう。

群 罌 士 庶 等 賢	意 仁 躋 帝 王 頭 輅	仁 孝 此 天 下	鑽 仁 孝 此 天 下	藥 湯 相 察 瓶 龍	相 終 審 噉 醜 職 肝	媿 欺 憐 遠 驚 眉	忍 欺 紛 魄 丞 治 浩	涓 翰 職 奇 權 鼎	箕 文 帝 希 賢 漢 代
嚙 枯 余	持 孝 停 碇	色 轉 三 代 駭 群 留 芳 名	遺 純 良 化 奇 黎 元	乙 詳 勳 血 買 登 帶 腹	襖 連 翰 噉 數 帶 腹	匹 辭 侯 下 常 如 改 駟	沕 悉 尼 數 數 初 如	奉 蜂 薄 后 禮 常 庄 差	哪 印 封 外 墜 親 王

図2 「二十四孝演歌」の「親嘗湯藥」部分 (①『掇拾雜記』)

おわりに

本稿ではベトナムに伝わる「二十四孝」説話について、中国や日本伝存のテキストと比較しながらそのテキストを調査、紹介し、文献学上の特色を明らかにした。これらは字喃による解説をともなっていることに特色があり、李文馥の「二十四孝演歌」がベトナムにおける「二十四孝」普及に決定的な影響

を与えたことも指摘することができた。とりわけ、ベトナムの「二十四孝」テキストはおおむね、三種あるテキストのうち、いわゆる『日記故事』系統のものであること、とりわけ清代後期に作られた「二十四孝原編」の流れを汲むことが明らかになったと思われる。

さらにこの「演歌」のうち、二篇に関して、訳注を試みた。字喃の語訳、テキスト間の文字の異同についてもこれを明示した。従来、ベトナムにおける「二十四孝」の研究がほとんどなされていなかったことを考えれば、本稿での考察は一定程度の意義をもつといえよう。

ここに紹介した2人の孝子説話に見られるように、これらは荒唐無稽な色彩を持っているが、人々に「親孝行」を勧めるため「孝道」の偉大さを強調することが目的となっている。舜の場合、至誠に「孝」を行うことであらゆるものを感動させ、ひいては舜に見出されて帝位につく。漢文帝の場合には皇帝であるにもかかわらず病気の母親に事前に自ら薬を嘗め、衣服の帯をとかず寝ずに看病した。それはまさに『礼記』曲礼篇に「父母有疾、冠者不櫛、行不翔、言不惰、琴瑟不御、食肉不至変味、飲酒不至変貌、笑不至矧、怒不至晉、疾止復故」⁴⁴⁾、「親有疾、飲薬、子先嘗之」⁴⁵⁾といい、『小学』善行第六に「親有疾、衣不解帯、湯薬必親嘗」⁴⁶⁾という、儒教の「孝」思想をそのまま実践している。この二つの説話によってみても、儒教の思想が生き生きと反映されているのが分かる。もちろん現代の目から見れば、消極的な面も見受けられるが、それはまた別の問題であろう。

また、李文馥の「二十四孝演歌」は人々に「孝」を教えるのに重要な役割を果たしただけでなく、文献学、言語学の面から19世紀の字喃研究に有益なテキストともなっている。「二十四孝演歌」はかつてベトナム人の生活に親しく熟知され、現在でも形を変えて出版され書店に置かれ、今でも購読者がいる。この文献は時代遅れにならず、なお一定の価値があることを再確認することもできた。

「二十四孝」説話に見られるとおり、「孝道」の教育は儒教思想の中で重要な位置を占めている。それは孟子のいう「不得乎親、不可以為人。不順乎親、不可以為子」⁴⁷⁾、『孝経』にいう「教民親愛、莫善於孝。教民礼順、莫善於悌」⁴⁸⁾の語を民衆にわかりやすく伝える内容をもっている。もともと漢文で書かれたこれらの説話をベトナムではさらに字喃をもって解説し、また暗誦しやすい詩歌の形式で普及させたことになる。

本稿はベトナムにおける「二十四孝」につき、基本事項を概括的に考察したものである。今後は中国と日本、韓国など漢字文化圏の国々の「二十四孝」説話を広く調査し、民族性や多様性を念頭に置きつつ、その伝播の受容、変遷の姿を明らかにしていきたい。

44) 十三経注疏整理委員会『十三経注疏整理本』第12冊『礼記注疏』曲礼上(北京大学出版社、2000年)、77頁。

45) 十三経注疏整理委員会『十三経注疏整理本』第12冊『礼記注疏』曲礼下(北京大学出版社、2000年)、175頁。

46) 宇野精一『小学』新釈漢文大系第3巻(明治書院、1965年)、388頁。

47) 十三経注疏整理委員会『十三経注疏整理本』第25冊『孟子注疏』離婁章句上(北京大学出版社、2000年)、249頁。

48) 十三経注疏整理委員会『十三経注疏整理本』第26冊『孝経注疏』広要道章第十二(北京大学出版社、2000年)、50頁。